



# 赤ちゃん・ちびっこ通信

Vol. 10 (2014年3月発行)

日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございました。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えて、11年目となる九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、3月現在で671名の方々（ご卒業された方も加えるとこれまで1542名の方）にご登録・ご協力を頂いています。

調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。中には、現在論文として投稿中の研究もあります。これからも新しい調査をたくさん予定しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

## 今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

昨年度と今年度ご協力いただいた調査は、「日本心理学会第77回大会」（札幌コンベンションセンター 2013年9月）「日本人間行動進化学会第6回大会」（広島修道大学 2013年12月）等の学会・研究会で順次発表させていただきました。

### 赤ちゃん研究

#### 15か月児は他者に新たな情報を自発的に提供する

担当者：孟憲巍 対象：15ヶ月児

私たちはコミュニケーションを行う際、常に他者の「心」（他者が「そのモノ」を知っているかどうかなど）を推測しています。例えば、友人と「いつもの話題」について話すことの前提として、私と友人が「その話題」に関する知識をある程度共有していることが挙げられます。それでは、他者の「心」を推測した上でのコミュニケーション行動は、人生のどの時期から見られるでしょうか。そこで、私たちは、子どもが他者に教えるときによく使う指さしを指標に、その問いを検証しました。

#### Self-face recognition in infancy（乳児の自己顔認知に関する研究）

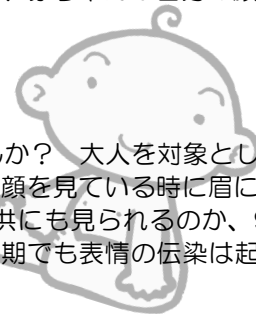
担当者：横石紗季 対象：9～12ヶ月児

赤ちゃんはいつ頃から、「自分の顔が自分である」と分かるようになるのでしょうか。今回の調査では、赤ちゃんに「自分の顔」、「知らない赤ちゃんの顔」、そして2人の顔を合成して作った「中間顔」を見てもらい、「Tobiiアイトラッカーという」、画面のどこを見ているかを測定できる装置を用いて、赤ちゃんが自分の顔を理解しているか調査しました。

#### 赤ちゃんに表情は伝染するだろうか？ ～笑顔と怒り顔の映像をもちいた研究～

担当者：田尻加奈 対象児：9～17ヶ月児

「人の笑顔を見ていたら、自分もつられて笑顔になっていた」という経験はありませんか？ 大人を対象とした研究では、モニター上に映る表情に対して、笑顔を見ている時に口角があがる、怒った顔を見ている時に眉に力が入るなど、思わず同じ表情になってしまうと報告されています。このような現象は子供にも見られるのか、9-12ヶ月、15-17ヶ月児のお子様にご協力いただいて調査をしました。その結果、乳幼児期でも表情の伝染は起こることが分かりました。



## 赤ちゃんの「状況に即した表情理解」についての調査

担当者：上野みちる 対象：9～12ヶ月児

おとなは、楽しいときに笑う、悲しいときに泣く、というようにその時々状況と他者の表情とをふまえて他者の感情を推測します。これによってまわりの人とうまくコミュニケーションを取り、円滑な社会生活を維持させていると考えられます。ところで、この能力は、発達の中でいつごろ、どのようなメカニズムによって発達するのでしょうか。これまでの研究で、生後6ヶ月の時点で赤ちゃんは、表情の弁別ができることがわかっています。さらに、生後9ヶ月頃になると周囲のヒトやモノの動きや状況に注意をむけることがわかっています。しかし、赤ちゃんは表情と状況をマッチングさせることができるのかについてこれまで検討されていません。そこで、この調査では「状況と表情が一致している映像」と「状況と表情が一致していない映像」の2パターンの映像をモニターに提示し、どちらの映像を赤ちゃんが好んで見るのか(あるいは見たがらないのか)について、「Tobiiアイ・トラッカー」という画面のどこを見ているかを測定できる装置を用いて調べました。

## ちびっこ研究

### 幼児における関係性に応じた意図推論の発達

担当者：宇土裕亮 浦田恭子 長江侑紀 対象：3～5歳児64名 成人36名

コミュニケーションの中で、相手の気持ちを推測することは重要な意味を持っています。その気持ちを推測するために、相手の言葉や表情、話の流れなど、私たちは様々な情報を敏感に感じなければなりません。そのような情報の中で私たちが注目したのは、仲よしかどうかという情報です。同じ行動であっても、その二人の関係性が違えば、その意図の受け取り方は柔軟に変えていかなければいけません。そこで、人と人の関係性を相手の気持ちを察するための情報として扱うことが、どのように発達していくかについて、登場人物の関係性を変えたいくつかの種類のお話を見てもらいながら、大人との比較をしながら調査を行いました。



## 研究室からのお知らせ

- 私どもの研究室では現在、0～6歳頃までのお子さんと保護者の方に調査のご協力をいただいております。0～1歳のお子さんを「赤ちゃん研究員」、2歳～就学前までのお子さんを「ちびっこ研究員」としてご登録させていただいております。登録の切り替えは毎年4月に行っております。4月時点で2歳になられているお子さんにつきましては自動的に「ちびっこ研究員」へと登録を移行させていただいております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。
- 4月に小学校へ進学される皆さま、ご入学おめでとうございます。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」の登録は就学年齢で終了とさせていただきます。長らくのご協力、まことにありがとうございました。

## 連絡先

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀（はしや かずひで）：准教授

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1（教育心理棟3階307号室）

TEL & FAX: (092) 642-3143 E-mail: babykyushu@yahoo.co.jp

Web : <http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/devpsy1/is/index2.html>

九州大学 赤ちゃん研究員

検索



Faculty of Human Environment Studies